

## 蒲生干潟の地形調査②

### ■満潮時・干潮時の潟湖の大きさ

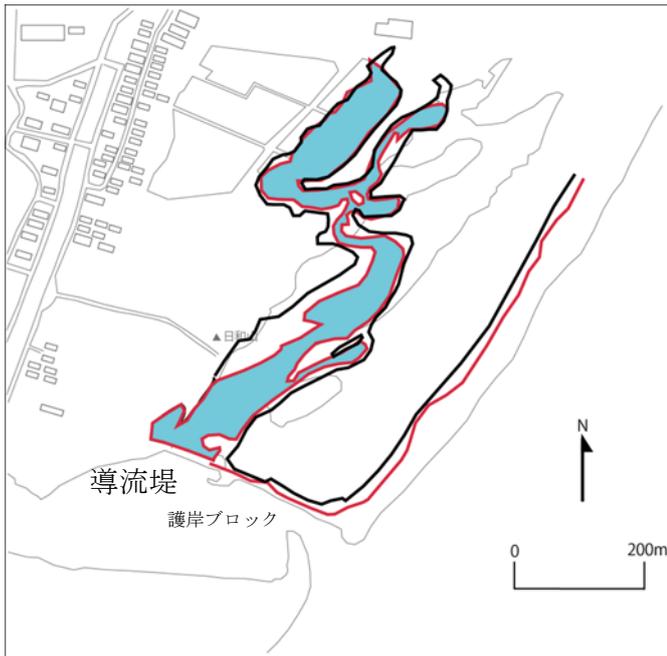


Fig.1 2015年4月3日の汀線の簡易測量結果



Fig.2 干潮時の導流堤の通水部分



Fig.3 満潮時の導流堤の通水部分

3月の調査では満潮時であったのにも関わらず、2月の干潮時の調査より潟湖の水位は低い結果となった。このため、一日の水位の変化を明らかにするため、今回の調査では満潮時(9:20)と干潮時(15:27)の2回調査を行った。Fig.1の赤線の部分が干潮時の汀線であり、水色の部分は潟湖である。また、黒色の部分は満潮時の汀線である。Fig.1を見て分かるとおり、潟湖内の水位は満潮時と干潮時では大きく変化することが確認された。Fig.2, Fig.3は導流堤の通水部分の写真であり、矢印は水の流れの方向を示している。干潮時には潟湖から川へ水が流れ出し、満潮時には川から潟湖へ水が流れ込んでいる。潮の干満が潟湖の水位に大きな影響をあたえることが確認された。

### ■護岸ブロック付近の姿



Fig.4 護岸ブロックの深さ



Fig.5 護岸ブロック付近 東側から撮影

2月3月の調査では、護岸ブロック付近では浸食の段階にあると考えられていた。今回の調査では護岸ブロックの内側の深さは40cm(Fig.4)であった。3月の調査ではその深さは115cmであった。護岸ブロック付近は75cmの砂の堆積があることが確認され(Fig.5)、現在は浸食から堆積の段階に変わっていたことが確認された。